

県内主要河川におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況（令和元年度）

渡邊長生・横塚哲也・小堀功男

目的

県内ではヤマメ（川で一生活を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、詳細な利用実態は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。また、那珂川における主産卵場である、箒川および木ノ俣川における産卵床調査を実施した。

方法

釣果情報 昨年と同様に2019年シーズン中（3月1日から9月19日）における那珂川のヤマメ・サクラマスの釣果情報を収集および整理した。さらに、2013年から収集した釣果情報の整理も行った。併せて、那珂川におけるヤマメ、サクラマスの釣り人数を推定するため、栃木県那珂川漁業協同組合連合会から遊漁券及び賦課金納入者数の聞き取りを行った。さらに漁期中のアユの釣り人にサクラマス・ヤマメ釣りをしているか聞き取り、その割合からヤマメ・サクラマスの釣り人数の推定を行った。

産卵床調査 9月20日から11月8日にかけて那珂川（木ノ俣川及び油井上下流を含む）、那珂川支流の箒川を踏査し、産卵床の数、産卵床にいる親魚の尾数や大きさ及びヤマメとサクラマスの違いを観察した。観察方法は既報に従った。なお、8月下旬に那珂川北部漁協により養殖魚由来の成魚が那珂川上流部へ放流された。

結果および考察

那珂川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数

2019年は15名の釣り人から35尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが68.6%（24尾）、サクラマスが31.4%（11尾）であった（図1）。また、全長31cm以上の個体（13尾）に占めるヤマメの割合は30.8%（4尾）、サクラマスの

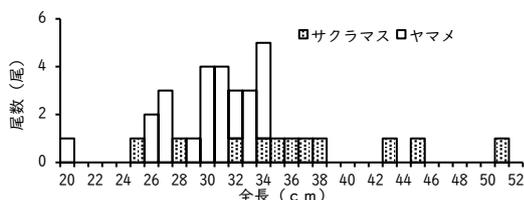


図1 ヤマメとサクラマスの釣獲尾数

割合は69.2%（9尾）であった。サクラマスの最大個体は51cmであった。

那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期 ヤマメは3月上旬から8月下旬まで釣獲され、シーズン後半に大型個体が釣獲される傾向が確認された（図2）。一方、サクラマスは6月下旬から7月中旬に釣獲される個体が多かった（図2）。

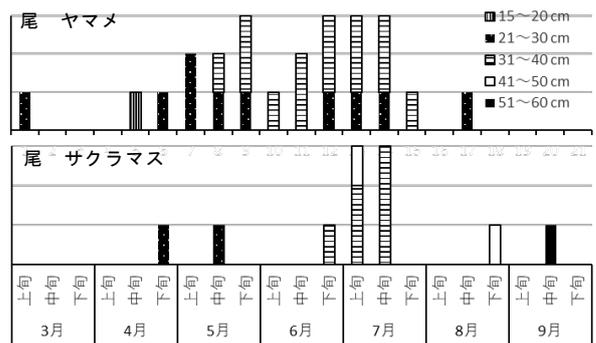


図2 ヤマメとサクラマスの釣獲時期

那珂川における産卵床調査 那珂川におけるサクラマスの主産卵場である那珂川（木ノ俣川及び油井上下流）及び箒川において、サクラマス親魚がいる産卵床を確認することはできなかった。今年度は遡上時期（5-7月）の濁水で産卵場まで遡上できたサクラマスがいなかったか、台風19号の増水により何らかの影響を受けた可能性がある。サクラマスの産卵場調査は平成28(2016)年から継続して調査を行っているが、産卵床数は年々減少傾向にある（図3）。サクラマスの資源量は、産卵床数に比例するとされており、²⁾那珂川におけるサクラマス資源が今後大きく減少する可能性がある。

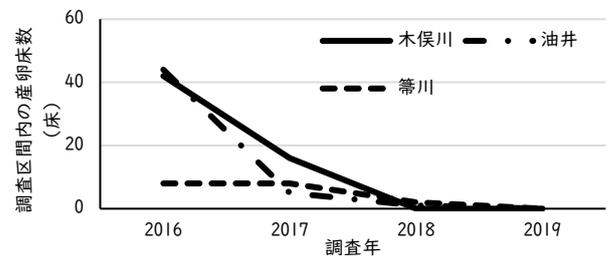


図3 木ノ俣川及び箒川における産卵床数の推移

鬼怒川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲情報 2013年から2019年までの鬼怒川の釣果報告状況について図4に示した。2013年から2018年までは4月中

旬から釣獲報告数が伸び始め、7月中下旬まで報告が続いていた。一方2019年は3月解禁当初から多くのヤマメ・サクラマスが釣獲されており、3月中も多くの釣果報告が寄せられた。これは、前年度のヤマメの生残が良好だったことと、2019年2月20日の解禁前に27gの幼魚が6,000尾放流されていたことが好釣果につながったと考えられる。鬼怒川のヤマメは海に降下したサクラマスに匹敵する成長率を示すことが報告されており、³⁾解禁までに釣獲サイズに達することができることから鬼怒川の生産性の高さが示されている。40cmを超える大型個体については、いずれの年もシーズン後半の6月以降に釣獲されていることがわかった。河川生産力が高い鬼怒川においては幼魚放流が有効な増殖手法になりうることを示唆された。

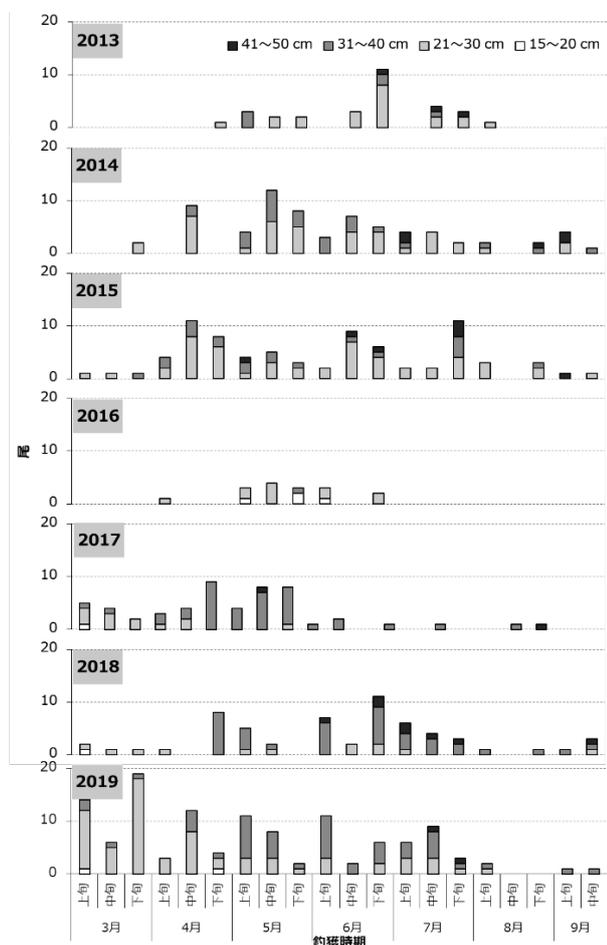


図4 鬼怒川における釣果報告の経年変化

那珂川におけるサクラマス、戻りヤマメ利用者数の推計 那珂川のアユ解禁日である6月1日にアユ遊漁者180人に対して「ヤマメ・サクラマス釣りをするかどうか」について質問を行ったところ、91人(55%)の釣り人がヤマメ・サクラマス釣りをすると回答した。また那珂川漁業協同組合連合会に対してヤマメ・

サクラマス釣りが可能な組合員証、遊漁年証、雑魚年証、雑魚日釣甲券、雑魚日釣甲現場券の発行枚数を聞き取ったところ、表1の通りであった。なお、那珂川漁業協同組合連合会管内において全魚種日釣券についてはヤマメ・サクラマス釣りも可能であるが、そのほとんどがアユ遊漁に使用されていることから除外した。組合員証、遊漁年証の55%がヤマメ・サクラマス釣りをすると、2018年実績では那珂川において延べ5,945人がヤマメ・サクラマス釣りの釣り人数と推定された。

表1 2018年の那珂川漁業協同組合連合会管内における遊漁券等の発行枚数

	那北	那南	茂木	那中	合計	サクラマス・ヤマメ 遊漁者の割合	推定数
組合員証	3,673	1,808	733	1,357	7,571	0.55	4,164
遊漁年証	40	0	0	1	41	0.55	23
雑魚年証	718	108	27	94	947	1	947
雑魚日釣甲券	667	59	0	66	792	1	792
雑魚日釣甲現場券	16	1	0	2	19	1	19
合計							5,945

引用文献

- 1) 網川孝俊・横塚哲也. 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲状況(平成29年度). 栃木県水産試験場研究報告. 2019; 62: 43-44.
- 2) 下田和孝・川村洋司. 網走川支流ドードロマップ川における魚道設置前後のサクラマス産卵床の分布(短報). 北水試研報. 2014; 85: 41-46.

(指導環境室)